
MOON-3 『WOLF MEET VAMPIRE』 < 1 5 >

みづき海斗

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

MOON - 3 『WOLF MEET VAMPIRE』 <15>

【Nコード】

N3174M

【作者名】

みづき海斗

【あらすじ】

深夜の新宿でまた『事件』が起ころうとしている。

秀はそれを阻止できるのか――『闇』の血を使って。

和人と秀の出会いを描いた『WOLF MEET VAMPIRE』
第15話
です。

『WOLF MEET VAMPIRE』＜15＞（前書き）

『打ち込み』が大変です（爆死）

『WOLF MEET VAMPIRE』 <15>

<15>

深夜・・・”出勤”途中の彼女は、足早でその場所を通り過ぎようとしていた。

新宿3丁目。

近頃、この近辺で多発している『通り魔』殺人の噂は、新聞やTV、

彼女の身を案じる『常連客』の話で彼女も人事ならず思っていた。歌舞伎町の店に向かって、知らず知らずのうちに歩みが速まる。

「やあ、彼女！」

「！」

ふいに、背後から声をかけられ彼女は驚いて振り返った。

賑わう店内に比べて、この通りは何て淋しいんだろう、誰もいないじゃない・・・

そう思っていた矢先の事であった。

「あー、びっくりした！」

サラリーマン風の若者の姿を認め、彼女はほっと胸を撫で下ろした。

「急に声をかけてくるんだもん。心臓止まるかと思っちゃった。

「ごめん、ごめん。」

20代半ばと思えるその男性は、素直に彼女へ詫びた。「いや・・・俺、新宿ってあんま来た事なくってさ。先輩に連れられて飲みに来たのはいいけど、その先輩つてのが俺が酔いつぶれてる時に、俺の事忘れて帰っちゃったみたいでさ。」

「あら、ひどい先輩ね！」

彼女は、”いいとこのお坊ちゃん風”の彼の全身を眺め、

「困ってるんじゃない？終電もなくなっちゃったし。」

「そうなんだよ、実は。」

青年は、途方に暮れた様に溜息をついた。「家は三鷹だし、もうすぐ朝だろ？会社も始まるし……。君、速足で歩いてて新宿の事詳しそうだったから、何処かカプセルホテルでも知ってやいないかと思つて声をかけた訳さ。」

「カプセルホテルだなんて……」

彼女は、思いついた様に言った。「ねえ、もし良かったら私の家に泊つていかない？」

「え？」

男性は驚いた様に、「君の家つて……。だって」

「中野坂上だから、新宿駅のすぐ隣。15分もタクシーを走らせれば、

マンションに着くわ。」

「でも、君。」

彼は戸惑いがちに、「何か……。用事があつて早く歩いてたんじゃないの？」

「あ、気にしないで。歌舞伎町の仕事先……!」

と、まで言い、慌てて口を押さえる。「いえ……。えつと。歌舞伎町でね、仕事先の友達とあなたみたいにはぐれちゃつて……。うちへ帰るために通りでタクシーでもつかまえようかな、なんてね。」

「そうなんだ。」

「そうなのよ！だってもうすぐ朝で会社が始まるでしょ？」
につこりと微笑み心の中では、舌を出す。

「部屋だったら心配しないで。2部屋あるから……。好きな様に使つて

くれて構わないわよ。」

「うん、それじゃ……」

彼は髪をかき上げ、「お言葉に甘えちゃおうかな、今夜だけ。」

(やった……!)

彼女の気持ちは、はしゃいでいた。

背丈の高いスレンダーな、なかなか彼女好みの男性だった。

おまけに着ているスーツはアルマーニ――新宿をあまり

知らない、というところをみるとやはり何処かのお坊ちゃんなんだろう。

果てしない希望を抱く彼女の心が、ほんの少し前までの”警戒心”を完全に解いてしまっていた。

彼女は男性と連れ立って、大通りに向かって歩いた。

あと、5分も歩けば〇Ｉ〇Ｉの隣から新宿通りへと出る。

「ねえ、君。」

一瞬会話が途切れた時、青年は彼女に甘い声で囁いた。「キスしてもいい？」

「え……いいわよ。」

彼は酔っているのか、ふいの誘惑に一瞬戸惑う彼女。

しかし、歌舞伎町のホステスを務める彼女にとって、”キス”は出会い

の挨拶程度のものだった。

「……いいわよ。」

長い睫毛の目を静かに閉じ、軽く顎を上げる。

彼の手が自分の顎に触れるのがわかる。

（なんか、冷たい手――もう、初夏の陽気なのに……）

彼女が抱いた”意識”は、それが最後だった――

全身を溶かす程の”ディープキス”が、彼女の体から立つ力さえ奪っていく。

「本当、可愛い子だね、君。」

彼は、力無く腕の中に倒れ込んだ彼女の体を抱きしめて言った。

口元から、一条の生温かい血を伝わせながら……

そして尚も『死の接吻』を与えるべく彼女の白い首筋に、2本の八重歯を突き立てた時――

「そうやって、一体何人の人間を『喰い物』にしてきた。」

「!」

青年は驚いて振り返った。

そこには、一人の若者の姿 . . .

「. 貴様か。この間の事、全く懲りてないらしいな。」

「青年は、彼女の体を路上に放り投げて立ちあがった。「もう一度、やられたいのか?」

「いや。」

秀は不敵の笑みを浮かべた。

口元に、鋭い2本の犬歯を光らせて . . .

「今宵は、満月 . . . この間みたくやられはしないぜ。」 飢えてる”のは

こつちの方だからな。」

「何を ? 貴様”人間”じゃないな!」

「てめえに言われたかないね! この吸血鬼^{ヴァンパイア}野郎!」

「八つ裂きにしてやる!」

ばたん ばたん ばたん

彼の言葉を合図に、通りを囲む店の扉が次々と開かれた。

中からは、あの夜と同じ『呪われた血』を持つ、無数の人々の姿

-
-
-

『WOLF MEET VAMPIRE』＜15＞（後書き）

最終章が長いのでぶった切って掲載してます。お時間のある方は、第1話から

お読みくださいませ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3174m/>

MOON-3 『WOLF MEET VAMPIRE』 < 1 5 >

2010年10月8日23時38分発行